

令和5年度病害虫発生予察 特殊報第1号

令和5年5月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

1 害虫名 和名：スモモミハバチ
学名：*Monocellicampa pruni* Wei

2 発生作物 スモモ（露地）

3 発生経過

令和4年5月16日に県北部の露地栽培スモモにおいて、幼果内部をハバチ類幼虫が食害する被害が確認された（図1、3、4、6）。同様の被害が県内各地で確認されたため、令和5年3月より各スモモ産地に粘着トラップを設置し、誘殺された成虫（図2）を門司植物防疫所に送付し、同定を依頼したところ、スモモミハバチ（*Monocellicampa pruni* Wei）と判明した。

4 国内での発生状況

令和元年度に山口県で初確認され、令和2年度には広島県でも発生が確認されている。

5 県内の発生状況

- 1) 初確認年月日：令和5年3月30日
- 2) 発生確認地域：北部、中部、豊肥
- 3) 発生確認面積：28a

6 発生生態と被害状況

1) 形態

老齢幼虫は、体長10mm程度。全体的に白色で、腹脚は退化してほぼ突起状となる（図1）。成虫の体長は6mm程度と小型である。体色は全体的に黒色であり、翅も暗色である（図2）。

2) 生態

寄主はスモモのみで、年に1回発生する。中国では開花初期に一斉に羽化し、幼果のがくや花托の表皮に産卵することが知られる。孵化した幼虫は果実内部に食入し、仁を食べて内部に糞を蓄積する（図3、5、6）。近縁のナシミハバチと異なり、複数の果実を渡り歩いて食害することはなく、幼虫の成育は1つの果実内部で完結する。約30日後に果実に穴（図4）を開けて脱出し、土中で土繭を作って夏、秋を経過し翌春に蛹化する。分布は中国及び韓国との報告がある。

3) 被害状況

幼虫は幼果内部を食害する。糞は果実内部に溜まり、外へは排出されない。被害果を割ると、内部の空洞に幼虫と比較的乾燥した細粒状の糞が見られる(図3、6)。被害果径は大きくとも1 cm程度と小さく、5月上中旬には正常果と生育に大きな差が出るため、見分けることができる。また、被害果は無防除園に多くみられる。

7 防除対策

1) 開花終了後直ちにスモモミハバチに対して登録のある薬剤で防除を行う。

(引用・参考文献)

1. 2020年3月16日 山口県病虫害防除所 令和元年度病虫害発生予察特殊報第3号
2. 2020年5月29日 広島県西部農業技術指導所 令和2年度病虫害発生予察情報特殊報第1号



図1 老齢幼虫 (令和4年5月16日採集)



図2 粘着トラップに捕獲された成虫
(令和5年3月30日採集)



図3 幼虫と幼果内部の食害状況
(令和5年4月11日採集)



図4 幼虫の脱出孔
(令和4年5月16日採集)



図5 幼果への食入孔
(令和5年4月25日採集)



図6 食入孔の断面
(令和5年4月25日採集)